

平成30年12月11日
愛媛大学

 愛媛大学 社会共創学部

 松山ブンカ・ラボ **市民参加プログラム**

「まちと文化とアートの学校」を開催します

愛媛大学社会共創学部松山アートまちづくり寄附講座（松山ブンカ・ラボ）

社会共創学部「松山アートまちづくり寄附講座」は、文化芸術をキーワードに、「市民全員が“まつやま文化人”」を目指し、活力のある地域社会を形成することを目的とするもので、本寄附講座内に設置した『松山ブンカ・ラボ』が、松山市文化芸術振興計画で掲げる3つの戦略（①総合情報戦略、②文化創造戦略、③ことば文化発信戦略）を実施します。

これらの戦略を実施することを目的とした市民参加プログラム「まちと文化とアートの学校」を3回にわたって開催します。各回ゲストを招き、対話を通じて、社会とアートの重なりを探り、参加者がアートプロジェクトの担い手となることを目指します。

つきましては、是非取材くださいますようお願いいたします。

記

日時・内容・講師：

- 第1回 2018年12月15日（土）『再考！アートは社会の役に立つのか』
講師：戸館正史（社会共創学部助教（松山ブンカ・ラボ・ディレクター））
- 第2回 2019年1月26日（土）『草の根の居場所づくり』
講師：浦岡雄介（私設公民館いさざ会館）
- 第3回 2019年2月23日（土）『市民・地域・福祉・教育と向き合うアート』
講師：多田淳之介（富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ・芸術監督）

いずれも 14:00～16:00

会場：愛媛大学城北キャンパス総合研究棟2 3階 ラーニングコモンズ2

参加費：無料

定員：30名（先着順）

申込み：eメール（todate.masafumi.xc@ehime-u.ac.jp）あて、住所、氏名、
電話番号、「まちと文化とアートの学校」参加希望と明記の上、送信してください。

※送付資料4枚（本紙及びリーフレット）

本件に関する問い合わせ先

担当部署 社会共創学部

担当者名 戸館正史

TEL：070-3795-5403（9時～19時）

Mail:todate.masafumi.xc@ehime-u.ac.jp

市民と文化とまちをつなぐ支援事業



2018年度プログラム

愛媛大学社会共創学部寄附講座
松山ブンカ・ラボ キックオフシンポジウム

『アートは社会の役に立つのか？
～文化芸術とまちづくり』

2018
11 / 03

市民参加プログラム

- ▶ まちと文化とアートの学校 2018 12 / 15 2019 01 / 26 2019 02 / 23
- ▶ ブンカ・ラボ・ミーティング 2018 12 ~

 愛媛大学 社会共創学部
 松山ブンカ・ラボ
(愛媛大学社会共創学部「松山アートまちづくり寄附講座」)

松山市文化芸術振興計画を実現するためのプログラムを企画・実施していく事業が愛媛大学社会共創学部/松山アートまちづくり寄附講座、すなわち松山ブンカ・ラボです。公・民・学の協働による松山市文化創造支援協議会（愛媛大学、NPO法人シアターネットワークえひめ、NPO法人クオリティアンドコミュニケーションオブアーツ、松山市文化協会、松山市）が愛媛大学に資金を寄附することによって設置されました。

『アートは社会の役に立つのか？ ～文化芸術とまちづくり』

2018年3月に松山市文化芸術振興計画が策定されました。計画では文化芸術のクリエイティブな発想や価値観が、まちづくりや教育、福祉、産業などさまざまな領域に活かされていくことを目指しています。文化芸術＝アートが社会のさまざまな場面で役立つとはどういうことなのでしょうか？文化芸術を担う市民や文化団体にはどのような役割や関わり方があるのでしょうか？

本シンポジウムでは、さまざまな地域での実践や事例を踏まえながら、アートの社会での有用性を問い直し、市民が「文化芸術の当事者」となるための多様な視点を参加者の皆さんと共有していきます。

2018年11月3日(土) 13時30分～16時30分(休憩あり)

会場 ▶ 愛媛大学共通講義棟A11番教室

登壇者 ▶ 伊藤裕夫 (文化政策研究者、日本文化政策学会前会長)
大澤寅雄 (ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室主任研究員)
宮下美穂 (NPO法人アートフル・アクション事務局長)
徳永高志 (NPO法人クオリティアンドコミュニケーションオペアーツ理事長)

進行 ▶ 戸館正史 (愛媛大学社会共創学部助教、松山ブンカ・ラボ ディレクター)

申込み ▶ 参加申込みフォームにアクセスいただき、必要事項をご記入の上お申し込みください。
www.secure-cloud.jp/sf/1535685709RuUBdcJY
またはメールにて参加の旨をご連絡ください。
todate.masafumi.xc@ehime-u.ac.jp



参加費 ▶ 無料

定員 ▶ 200名 (先着順)

ゲスト プロフィール



伊藤裕夫
日本文化政策学会前会長

1948年生まれ。東京大学文学部卒業後、広告会社、シンクタンクを経て、2000～2006年 静岡文化芸術大学教授、2006～2011年 富山大学芸術文化学部教授。現在は、静岡文化芸術大学、立教大学等の大学院で非常勤講師のほか、神奈川県文化芸術振興審議会会長等を務める。専門は、文化政策、アートマネジメント。近著に、『公共劇場の10年』(共編著・美学出版、2010)、『芸術と環境』(共編著・論創社、2012) など。



大澤寅雄
ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室主任研究員
プロジェクト室/文化生態観察

1970年滋賀県生まれ。(株)ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室主任研究員、NPO法人アートNPOリンク理事、九州大学ソーシャルアートラボ・アドバイザー。共著『これからのアートマネジメント“ソーシャル・シェア”への道』『文化からの復興 市民と震災といわきアリオスと』『文化政策の現在3 文化政策の展望』『ソーシャルアートラボ 地域と社会をひろく』。



宮下美穂
NPO法人アートフル・アクション事務局長

専門はランドスケープデザイン。東京都小金井市の小金井アートスポットシャワー2Fにて、ギャラリー、カフェの運営。2011年より小金井アートフル・アクションの事業運営に携わる。小金井市芸術文化振興計画推進事業では、さまざまなアーティストとともに小学校での授業や市民の方々と協働したワークショップなどを進めている。共著に『文化政策の現在』。



徳永高志
NPO法人クオリティアンドコミュニケーションオペアーツ理事長

1958年岡山市生まれ。早稲田大学大学院文学研究科博士課程修了。博士(文化政策学)。茅野市民館・美術館コアアドバイザー。内子座、町立久万美術館、淡路人形座のほか、伊予市、神戸市の文化施設計画や文化政策にもかかわる。慶應義塾大学大学院アートマネジメントコース非常勤講師。著書に、『芝居小屋の二十世紀』(1999年、雄山閣)、『公共文化施設の歴史と展望』(2010年、晃洋書房)、『内子座』(2016年、学芸出版社) など。

市民参加プログラム

1. 事例と対話から学ぶ

まちと文化とアートの学校



参加費 ▶ 無料

申込み・お問い合わせは▶
松山ブンカ・ラボ
メール todate.masafumi.xc@ehime-u.ac.jp
電話 070-3795-5403

プログラム

第1回 2018年12月15日(土)
「再考!アートは社会の役に立つのか?」
スピーカー: 戸館正史 (松山ブンカ・ラボ)

第2回 2019年1月26日(土)
「草の根の居場所づくり」
スピーカー: 浦岡雄介 (私設公民館 いさぎ会館)

第3回 2019年2月23日(土)
「市民・地域・福祉・教育と向き合うアート」
スピーカー: 多田淳之介
(埼玉県富士見市 キラリ☆ふじみ芸術監督)

時間 ▶ 14時～16時

会場 ▶ 愛媛大学総合研究棟2、3階
ラーニングcommons2

定員 ▶ 30名

プログラム

- ・アーティストと一緒に松山という地をリサーチする。
- ・表現活動や文化活動をしている人たちのネットワークづくり。
- ・アートプロジェクトや文化政策について勉強する。
- ・みんなでおしゃべりする。

—など、参加者と共に話し合いながら内容を決めていきます。

日時 ▶ 未定 (2018年12月から月1回程度の開催を予定。申し込み状況などを踏まえて決定します)

会場 ▶ 松山アーバンデザインセンター

2. 定期的なサークル活動

ブンカ・ラボ・ミーティング

松山ブンカ・ラボでは、文化活動をしている人やアートに関心のある人など様々な市民が交流するプラットフォームのような場づくりを目指します。アート、福祉、教育、まちづくりなど、いろいろな視点から、松山に暮らす人々と生活、歴史、地域の課題などに向き合っていく仲間を募集します。



多田淳之介
演出家、俳優、東京デスロック主宰

1976年千葉県出身。富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督。2013年、日韓共同製作作品『ガムメ カルメギ』で韓国の演劇賞「第50回東亜演劇賞」を受賞。(一財)地域創造リージョナルシアター派遣アーティスト。四国学院大学非常勤講師。APAFアジア舞台芸術人材育成部門ディレクター。東アジア文化都市2019豊島事業ディレクター。高松市アートディレクター。



浦岡雄介
元中学校美術講師、私設公民館 いさぎ会館

1981年生まれ。神戸出身。舞鶴市内の中学校で講師を務める。専門は美術教育。2015年京都府舞鶴市に文化交流施設「いさぎ会館」を開設。同館を勤務員として住み込みで運営。造形教室やアート・福祉に関わるワークショップ、またライブ、お祭り、中高年向けサロンの企画・運営、レンタルスペースを行い地域に関わる活動を行っている。



戸館正史
愛媛大学社会共創学部助教、松山ブンカ・ラボ ディレクター

1977年青森県生まれ。月見の里学遊館・企画スタッフ (2007-2012)、NPO法人アートフルアクション・プロジェクト担当、アーツカウンシル東京・調査員 (2012-2014)、アーツ前橋・教育普及担当学芸員 (2014-2015)、(一財)地域創造・芸術環境部 (2015-2018) を経て現職。日本文化政策学会、演劇人会議各会員。共著に『芸術と環境』(論創社、2012)。

市民と文化とまちをつなぐ支援事業

松山
ブンカ・ラボ
2018年度プログラム



松山市文化芸術振興計画

将来ビジョン

「市民全員が“まつやま文化人”」

基本理念

- 文化芸術で市民の創造性や表現力の向上を目指します
- 文化芸術で心豊かで活力ある地域社会の形成を目指します
- 文化芸術で市民の誇りと絆を深め、世界や未来へつなぎます

目標

- 文化芸術に接する機会を増やす
- 多様な人々が文化芸術を創造する
- 俳句やことばを軸とした松山の個性を伸ばす
- 文化芸術の創造性を様々な分野に活かす
- 文化創造に関わる人を増やす

戦略

【総合情報戦略】

総合情報サイトを構築

【文化創造戦略】

文化芸術の継承、保護や文化創造の仕組みを構築

【ことば文化発信戦略】

俳句を軸としたことば事業の更なる普及

具体化

松山ブンカ・ラボ

スクール
・
ワークショップ

アート
プロジェクト
・
リサーチ
プロジェクト

ミーティング

情報発信
シンポジウム

参加

交流

発信

ひと
まち
ぶんか

創造



松山市文化芸術振興計画ってなに？

「市民全員が“まつやま文化人”」を目指して、文化芸術をさまざま分野で活かしていくよ。
2017年に改正された「文化芸術基本法」では、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業などに文化芸術の創造性や多様性を活かして、社会のなかで文化芸術を役立てていこうってうたっているんだ。
「松山市文化芸術振興計画」は、この法律や「第6次松山市総合計画」に則して作られたんだよ。



市民全員が“まつやま文化人”ってどういうこと？

みんなが文化の当事者になるってことだね。ちょっとヘンテコな表現も、何気ない生活の営みも、大切な価値として楽しむのが文化芸術＝アートの基本的な考え方だと思うんだ。
そんな寛容で優しい眼差しが、創る人、観る人、まちづくりをする人、子育てをする人、アートなんて関係ないって思っている人、どんな人にも芽生えていくと松山はもっと素敵な街になるはず！



松山ブンカ・ラボは何をするの？

松山市文化芸術振興計画で掲げている3つの戦略に即したプログラムを実施していくよ。



「総合情報戦略」

WEBサイトなどのメディアを通じて、松山の文化活動を発信していくよ。みんなの交流の場＝プラットフォームも作りたいな。



「文化創造戦略」

文化芸術を、福祉や教育、まちづくりに活かしていくためのアートプロジェクトやワークショップ、子ども向けのプログラムを企画運営するよ。



「ことば文化発信戦略」

俳句甲子園などの長年の実績と成果を活かしながら、アートとの新しいコラボレーションを創っていくよ。

